薬学生に知ってほしい 医療と人の生き方

医療と暮らしを考える会
宮本 直治理事長に聞く

日本薬学生連盟

今回は「生と死」をテーマに、「医療と暮らしを考える会」理事長の宮本直治さんに、日本薬学生連盟広報部の高井薫子（東京薬科大学２年生）と芝口歩那（東邦大学薬学部５年生）がお話をうかがってきました。宮本さんは薬剤師でありながら、僧侶でもあります。ご自身の経験から紡ぎ出される言葉は、私たちの心に響き、お話を聞きながら泣きそうになりました。読者の皆様にも、何か心に響くものがあれば幸いです。

がん笑い飛ばす患者に感銘
死を意識し、生き方考える

――死生観についてご自身のお考えを教えてください。

僕は2019年まで大阪の病院で薬剤師として勤務していました。その間、ステージⅢの胃がんに侵されていることが分かりました。手術後の半年間、脱水症状を引き起こすほどの下痢に悩まされ医者に相談したところ、「患者さんによりますし、そのうち治りますよ」と告げられただけでした。

その一言で悩みが解決するわけでもなく、がん経験者と話そうとがん患者グループ「ゆずりは」を訪れました。そこで経験者に相談すると「下痢？そんなの何年たっても起こるよ！」と笑い飛ばして言いました。この瞬間「なんで良くならないのだろう、僕だけなのかな」「いつまでこれが続くのだろう」と問いを持つこと自体が間違っていたこと、また僕が求めていた答えが医療者の中にはなかったことに気づきました。

今人生が終わったとして後悔することはなにかと考えた結果、仏教を学ぼうと決意し、それから3年後、僧侶になりました。薬剤師としても僧侶としても活動する中で、多くの患者さんを看取り、そのたびに「次は自分の番だ」と何度も思いました。ですがこう思うほど「死ぬことができる」と思うようになり、気持ちが楽になりました。

死を意識した時、「どこでどう死にたいか」といった死に方を考えてしまいますが、考えても思うようにいかないものが死です。痛みを感じたくないと言っていても、痛みに苦しむ人もいるし、家族に囲まれて死にたいと思っていても、囲まれずに亡くなられる方だっている。でも思うようにいかないことが悪いわけではないのです。死とはそういうものなのです。

ですから、死を意識した時に考えるのは、「死に方」ではなく「生き方」なのです。それまでの時間をどう過ごすのか、それだけを考えればいいと僕は思っています。生き方を考えた上で、どこまで医療者に求めるのか、それを自分で確立していくことが大切であり、僕はそのお手伝いがしたいと思って活動しています。

人生は予想外だから面白い
進学もがんも、今につながる

――患者さんと関わる中で「生き方」についてどのように感じられたのですか。

患者会を運営していく中で、僕は患者さんのためにやっていると思ったことはありません。患者さんやそのご家族からうかがうお話は、知らないことばかりで、生きるとは何かを教えてくれるのです。患者会は、生きているってすごいなと思わせてくれる場所です。

死ぬことはいくら考えても、どうすることもできないことですから、生きているっていうことがこれほどまでに楽しいことなのかって感じる方が、ずっと価値のあることだと思っています。

５～６人の患者さんを集めて、命について話す集いをお寺でやっている時に、患者さん同士が「自分の死んだ話」で笑い合っていたんです。きっとその瞬間は生きるとか死ぬとかを全く意識していなかったと思います。そんな瞬間をがんになった人に作れたらいいなと思っています。

このような活動をしようと思ってしたわけではありません。でも気が付いたらこんな人生を歩ませてもらっています。想像もしていなかった未来がやってくることに気づけたとき、生きていてわくわくしませんか？だから人生って面白いのだと身をもって感じています。

――「生き方が大切である」と気づいたきっかけを教えてください。

ある日、朝日新聞社から僕の文章を新聞に載せたいと電話がきました。『人生において、病気になったという事実を変えることはできませんが、病気になった意味を変えることはできると信じています』。この文章が新聞に載った後、患者さんがその記事を切り抜き枕元においているという話を沢山聞きました。この時に「私はがんになるために生まれてきたんだ。私の人生にはがんが必要だった」と思いました。

実は、薬学部に進学する前はマーケティングを大学で学んでおり、内定も↗

「考える力」「対応力」を身につけて、効率よい充実した実習にしよう！

B5判/159頁/定価2,300円＋税

改訂モデル・コアカリキュラム対応
薬学生のための臨床実習
一般社団法人日本病院薬剤師会 監修　一般社団法人日本病院薬剤師会薬学教育委員会 編集

■代表的８疾患の症例について薬物治療の考え方や進め方を対話形式で解説

カルテや患者情報から、学生と指導薬剤師のディスカッションを通して薬物療法を検討し、医師への処方提案、患者への服薬指導、学生カルテの記録までの流れがわかります。

◎ポイントごとに「何をどう考えていけばよいか」が掴める！
◎実際の医療現場をイメージしながら学べる！

詳細はコチラ▶

薬事日報社　書籍のご注文は、オンラインショップ（https://yakuji-shop.jp/）または、書籍注文FAX03-3866-8408まで。